

専念寺通信

専念寺通信

一月号 (NO. 101)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

明けましておめでとうございます。みなさま、お健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。『専念寺通信』も、新年からちょうど101号めに入りました。心あらたに書きつづって参りたいと思います。本年もどうぞよろしく願いいたします。

毎年、新年号には法然上人の言葉、とりわけ1212年の上人の遺言とされる「一枚起請文」をご紹介するのが恒例となっていました。本号も同様の形式にと思いましたが、2008年秋から未曾有の世界経済危機が起り、日本にも波及、大晦日の時点で、住む家をなくした人が、国営テレビでおおぜい報道されています。今年は慣例をかえて、人が平和に暮らすことについて身近なことからお話しさせていただきたいと思います。

ホームレスという言葉は、たとえば、真面目に働かなかった人、人生の途中でつまづいた人、甘く見ても、たまたまひどく運の悪かった人、というふうに、私たちは考えていたのではないのでしょうか。けれど、数千人単位で派遣社員が解雇され、社員寮から追い出され、たちまち家さえなくしてしまう、という例が報道されるようになりました。会社は人件費削減のため、まず、クビにしやすい派遣の人たちを即日解雇しはじめたのです。この春までには、正社員も含めて5万人が職を失うと言われています。新聞の投書欄にも、35年のローンを組んでマイ・ホームを持ち、二人の子供を育てながらパートで働く主婦の訴えがありました。遅刻・欠勤なしで長く働いたご主人が会社をやめさせられ、ローンも払えない、家を売って安い賃貸住宅に引越ししようとしたら、夫が無職だから賃貸の契約ができないというのです。まじめにこつこつとこの国をささえつづけた人たちが幸せになれないのはどうしてなのでしょう。

日本人の、コンビニなどで働く若者の勤勉さについてふれたアメリカ人学者の言葉があります。「私の国でたった一人の、しかも自給900円程度の若者に店を夜中まかせたら、悪い仲間を呼んで、店の品物を車に積み

るだけ積んで現金を持って一晩で消えるだろう。」「なぜ、若者はそうしない。なぜ雇う側は信頼するのか。」というものでした。彼の国の学者には到底分かりえない私たちの道徳性、ひとつの宗教にしばられなくとも、「おてんとうさまがみている」とでもいうような倫理感が私たち日本人には確かにあります。そして21世紀になってから、この私たち庶民の優れた倫理感はずいぶんどこかで悪用されている気がします。勤勉であるのはよいことですが、何に対しても従順である必要はないかもしれません。あることを耳にしたら、まず、疑ってみる、自分を「無知」と認めたくえ無知だからこそ、なぜ?と問うてみる。大きな声の人にむやみに従わない。真実を語る人はしばしば静かに語ります。また、「真実」は大きな文字でなく、行間に、語っている人の気配にしこんでいることがあります。いま私たちにできることは限られています。けれど、あきらめることなく、どこかでもし私たちが判断を間違えたとしたら、それがどこだったのかを考えてみましょう。怒りにまかせて暴力的に行動する人がきっと出てくると思います。そのやり方では事態は解決しないことを法然上人の言葉から、そして歴史から私たちは知っています。同じ境遇の人と手を結びましょう。どこを変えればよいのか必ず見つかります。波をしのぎつつ、次の波に翻弄されない智慧を働かせましょう。今年が皆さまにとって良い年となりますように・・・。

平成21年1月1日 大黒

